

隅田川からみた 防災船着場のポテンシャル

従来、土木施設は特定の目的で建設・運営されてきた。しかし近年は本来の目的に加えて、防災や観光、地域交流など多様に活用されているものが目立つ。本企画では、このような土木施設の「だけじゃない」側面を向け、その多角的な視点を紹介する。今回は、東京都を流れる隅田川にある防災船着場の活用について、その取り組みと将来の展望について紹介する。

(2022年12月15日(木) THE GATE HOTEL 企画 by HULLCITY)

きっかけは

阪神・淡路大震災

江戸時代より、船は物資や人を運ぶ重要な手段だった。現在でも、東京の河川には多くの船着場が存在する。水運は、鉄道や自動車の普及に伴って衰退したが、阪神・淡路大震災以降、災害時の利用に注目が集まっている。東京都は1999年6月に、震災により寸断された陸上交通網の補完や物資輸送などによる道路負担の軽減のために水上輸送を活用する「防災船着場整備計画」を策定し、この計画に基づいて防災船着場を整備している。

災害時の役割

災害時には、傷病者・医療物資の輸送や緊急物資の輸送、避難者・帰宅困難者の輸送のために船が活用される予定である。地震発生後、船着場や船が壊れていないか、河川は安全に航行できる状態か確認する。また、隅田川は全区間が東京湾の潮汐の影響を受ける感潮区間であるため、津波の恐れもある。これらの安全を確認した後、「東京都地域防災計画(震災編)」に基づき、東京都の指示のもと船舶を活用できる。災害時には、国や東京都が所有し

ている船と普段から隅田川を運航している民間業者の船の両方を用いる。(公財)東京都公園協会は、東京都建設局との間に「災害時における船舶の輸送協定」を結び、年15回ほどの避難訓練で震災に備えている。

災害時だけじゃない!

平常時利用の意義

災害時に防災船着場を活用するために、平常時の使用が管理者や事業者、利用者にとって有効である。スロープの設置など、バリアフリー対応された船着場の整備が、災害時は支援助の輸送、平常時は車いす利用者への移動に役立つように、平常時

「取材協力者」(所属は取材時のもの)

落合 清治氏

大川原雄一郎氏

岡本遼太氏

東京都建設局 河川部計画課

野澤 珠枝氏

東京都建設局 河川部指導調整課

八馬 稔氏

(公財)東京都公園協会 水辺事業部 水辺ライン課 水辺ライン課長

中村 明弘氏

ヒューリックホテルマネジメント(株) 事業企画部開発室 マネージャー

と災害時に共通して求められる整備もある。さらに、観光目的で船の活用が進んでいけば、船着場自体の認知も広まり、近年高まる水辺活用の需要にも応えることが期待できる。

行政が設置した防災船着場 を民間事業者が活用

民間船着場設置のハードル

河川周辺を商業的に活用したいという民間事業者も多い。しかし、河川法では河川に、洪水や津波、高潮を防ぐ機能を第一に求めているため、船着場設置など河川敷地を占有するには治水や利水に支障がない場所や使い方を選ぶ必要がある。加え



図1 隅田川周辺マップ

て、民間事業者の河川占用は、地域の合意形成が得られた場合の特例とされておりさらにハードルが高い。その特例の貴重な実例として、東京都港区には民営の船着場を擁する「ウォータースタンプ」がある。この施設は水辺活用の好例であるが、開発から運営まで民間事業者が主体となり進めていくことは簡単ではない。

一方で、防災船着場として行政が防災目的で船着場を設置し、その船着場を民間事業者が利用する官民連携の仕組み作りは進められている。

防災船着場を活用した例

THE GATE HOTEL 両国 by HULIC は「両国リバーセンタープロジェクト」の一環で建てられたホテルである。このプロジェクトは、東京都が整備した両国防災船着場に隣接した土地に、官民連携で行われた。ヒューリック(株)が事業者となりホテルやレストランを含む複合施設を整備・管理した上で、施設内に子育て支援施設(墨田区)と水上バスの待合所(東京都)が入居している。プロジェクトを機に、高潮に備えた壁のような防潮堤は、地震に対する安全性を向上させた緩やかな堤防であるスリーパー堤防となり、親水性や景観が改善された写真1)。

ホテルは隅田川を臨むテラスを持ち、水上バスでの来訪や浅草方面へ観光を提案するなど、水辺の持つポテンシャルを活かした事業である。

これからの防災船着場にも注目

2018年に営業を終了した築地市場の跡地は、これから大規模な再開発が行われる。築地にも防災船着場が整備され、水運を生かすことでアクセスも向上する。

また、今後は浅草より上流の活用もさらに進んでいく。住宅地が多い上流域でも、地域ごとで水辺を使いたい人たちが巻き込んでいる事例もある。例えば東京北区観光協会は、隅田川との合流地点付近の荒川河川敷でデイキャンプをはじめとしたイベント「AKABANE PICNIC FESTA」に取り組んでいる。

課題解決だけじゃない！さらなる魅力を創出しよう

水辺空間を中心に発展した街だからこそ、隅田川を含む東京の東部低地帯には、浅草や東京スカイツリーなど江戸から現代の東京の風情が息づく。その魅力は多くの人を集める一方で、災害時には人が集まるゆえの脆弱性もある。その問題に対する解決策の一つが防災船着場である。平常時から活用することで人が集まることがさらなる魅力になる。防災

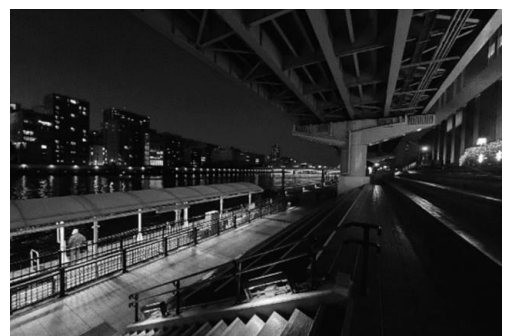


写真1 両国リバーセンターから見た防災船着場と隅田川

船着き場の活用が、街の安全にもぎわいも守ることにつながる感じた。近年、社会には課題が山積しているとされ、私たちはその解決ばかりに注力してしまう。しかし、大切なことは、魅力に目を向け、明るい未来や理想とする社会像から事業について考えることではないだろうか。今回は隅田川を取り上げたが、特有の課題を抱えつつも、潜在的な魅力も持つ地域は他にもあるはずだ。防災船着場の活用のように、課題の解決策となるだけでなく、さらなる魅力が生まれる事業が増えてほしいし、私自身も取り組みたい。(学生編集委員…松永葵、植野弘子、大畑空輝)